



2005

The Natural Science Publishers' Association of Japan

No. 4

自然科学書協会会報

発行人・志村 幸雄

編集・広報委員会

発行・2005年11月15日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

URL : //www.nspa.or.jp

専門書をどう守るか

—理事長に三選されて—

理事長 志村 幸雄

このたびは自然科学書協会の理事長に三たび選出され、引き続き55期、56期の2年にわたって重責を果たしていくことになりました。昭和21(1946)年設立の当協会はたまたま来年で創立60周年という節目を迎えますが、業界を取り巻く環境は依然厳しく、問題も山積しております。この上はこれらの諸問題に精力的に取り組み、次なるステップへの橋渡しの役割を果たす所存ですので、会員各位におかれましては一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大上段に構えて自然科学書協会のレーゾンドートルを問うつもりはありませんが、その答えは、公益法人としての公益性を踏まえながらも、業界発展の基盤整備を図っていくことにある、と言えます。当協会が終戦直後の廃墟の中から呱呱の声を上げたのは、印刷用紙割り当て問題への対応という現実的要請があったにせよ、自然科学書こそが知的インフラとして科学技術大国への原動力になるとの強い共通認識があったからに他なりません。

時代は移り変わって、日本の科学技術は今やキャッチアップ時代からフロントランナー時代への転換期にあります。私ども自然科学系出版社に課された課題はまたそれだけに重いものと受け止めています。

折から、この7月には議員立法による「文字・活字文化振興法」が成立し、「国は、学術的出版物の普及が一般に困難であることにかんがみ、学術研究の成果についての出版の



支援その他への必要な施策を講ずるものとする」(第10条)と定めています。この種の理念法に多くの期待は持てないにしても、その理念を空念仏にしないよう関係機関に働きかけていきたいと考えています。

振り返って当協会は、出版者の権利問題(特に複写権)、再販制度維持問題、消費税問題などに積極的に関わり合い、機を見て提言や要望書を出してまいりました。これらの問題は、いずれの場合も、一般書とは違った、専門書特有の問題を含んでおり、それも死活的に重要であることを考えると、今後とも当協会の最重要課題として目の離せない問題です。なかでも複写権問題は、昭和36年の笹塚コピー事件以来、当協会が業界の先頭に立って取り組んできたテーマで、この一兩年においても著作権法改正に伴う権利制限規定への反対表明、複写権処理機構の整備・強化などに中心的な役割を果たしております。

再販制の維持は専門書の商品特性から不可欠の要件ですが、公取委がその条件として求めている流通面での弾力運用には自ずから限

界があります。時限再販制や謝恩価格販売への対応が今後の課題となりましょう。

ここにきて急浮上している消費税引き上げ問題には、税率の軽減ないし据え置きを求めていきたいと考えています。世界の主要国がすでにこの種の対応を採っていること、高価格志向の専門書をできるだけ安く読者に提供していくことの2点その理由です。

以上のように問題は山積していますが、これらの課題に着実に取り組んでいくことこそが、当協会の存在価値を高め、活性化への道であると信じ、一意邁進していく所存です。

当面する重要課題

専務理事 本郷 允彦

本年7月に行われました総会におきまして、引き続き専務理事を受けさせていただきました。志村理事長とともに、当協会の発展のために努力する所存です。

さて、当協会が抱える課題は数多くあり、一つに公益法人の見直しがあります。現在、当協会は文部科学省から社団法人の認可を受けておりますが、見直しに関しては文部科学省のご指導をいただきながら対処していきたいと考えております。今後の進展をみながら、会員の皆様にはご相談・ご報告をしたいと思っております。

もう一つは消費税の問題です。一部の外国では出版物に対し低減税率の適用、また消費税ゼロの適用が実施されております。出版界では以前より話題にはなっていることですが、具体的な問題としてはあまり取り上げられてはおりません。今後、協会としてどのように取り組んでいくのかが大きな問題であると考えております。これもまた、会員の皆様の協力をはじめ、関連諸団体との連携を進めることが必要になってくると思っております。

協会においては昨年以上の活性化を進めるため、これからも会員の皆様のご意見をいただき、委員会、常務理事・委員長会議、常務理事会を適宜開催し、これら諸問題に取り組んでいきたいと考えます。

最後に当協会は来年、創立60周年を迎えます。その祝賀記念行事の開催に向けて、志村理事長を委員長とする「創立60周年記念特別委員会」を設け、「年史小委員会」（委員長・山本格常務理事）で年史の発行、「祝賀会小委員会」（委員長・牛来常務理事）で祝賀会開催の準備を進めています。

今後とも皆様のご支援・ご協力、よろしくお願いいたします。

第12回北京国際図書展示会に 出展参加して

第12回北京国際図書展示会（BIBF2005）は、9月1日から5日までの5日間にわたって場所を北京市の中国国際展覽センター（China International Exhibition Center）に移して開催されました。昨年までの北京展覽館に比べると北京首都空港からの所要時間が約半分くらいと近くなり、会場へのアクセスが格段に良くなりました。参加国家・地域数は48。総ブース数は1,099。日本からは134社が参加し、計38ブースで4,063点を出版。版權の取引は展示会全体で約9,000件（暫定発表）でした。

自然科学書協会では、共同ブースを設定し、20社の賛同を得ることができ、123点の出展参加が実現しました。また昨年と同様に関連分野の目録を各50部ずつ日本事務局ブース等で配布しました。主催の中国図書進出口（集団）総会社を通じてトーハンが受注した自然科学書協会の実績は、10月27日現在、①受注社：22社、②受注冊数：151冊、③受注金額：¥555,456（本体価格）でした。引き続き受注活動を行っています。

ブックフェア会期中の9月2日（金）、トーハンの仲介により、北京外文書店（王府井）の会議室でディスカッションを行いました。出席者は、中国側が北京外文書店、北京國家圖書館、中国人民大学外國語學院、中国医科大



第12回BIBF2005会場の中国国際展覽センターの外観

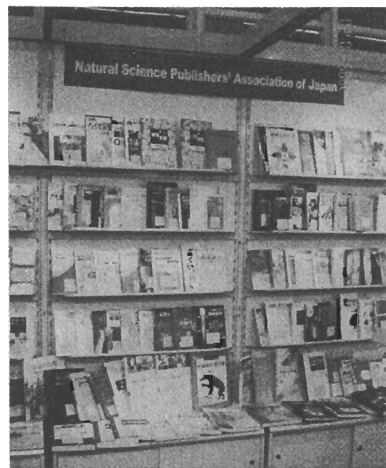
学図書館、中日友好病院など、日本側はトーハン、中山書店、シーエムシー出版で、総勢16名でした。話題の一つは、教科書シーズンに先駆け、欧米の出版社、たとえばシュプリンガー・フェアラーク等が行っている方式（北京では図書進出口公司及北京外文書店の2カ所で陳列展示）を北京外文書店の店頭陳列棚で実施できないか、日本側から提案しました。これに対して、副総経理はマーケットリサーチを行った上で対応を考えると約束してくれました。英文での出版を勧められたのは当然としても、中国語の出版も考えて欲しいと繰り返し強調されたのはやや意外でした。（中山書店 平田 直）

フランクフルトBFに 新しい時代の熱気

フランクフルトブックフェアに参加して、広大な会場の中を往来するさまざまな国籍の大勢の人がみな出版に関わっていると考えると、感慨深い。10月19日～23日のトータル入場者数は、2日間の一般公開日を含め28万4,838名（前年比6.3%増）。日本人も少なくないが、今年は韓国、あるいは中国のグループがよく目についた。Guest of Honour は韓国。1フロア全面での企画展示は相当にお金をかけたものだったが、各国の出版社が集まるエリアでも大きく展開し、首相が日帰りでセレモニーに馳せ参じる熱の入れよう。また、自然科学、とりわけ通信関係の専門書では、インドなど南アジア系のビジネスマンも多く、活動的であったように見えた（来年のGuest of Honour はインドの予定）。

自然科学書は4号館（4.2）だが、足を踏み入れるとすこし面喰らう。本でなく、音楽関係や映像関係の展ブースが華々しく構えているのである。BFの性格も時代とともに変遷し、著作権売買や国際共同出版の交渉の場、情報交換の場として大きな役割を果たすほか、現在では新しい出版の形態としてマルチメディアの宣伝にも力が注がれるようになってきている。その象徴的な存在の「Digital Marketplace」は、一つが2畳ほどの小さなブースの集合である。ブース内には書籍は並ばずに、CDやDVDが数枚飾られているほかは、PCが1台置かれているだけ。1人か2人の担当者が、関心を示す来訪者とPCを見ながらミーティングを進めているという具合である。こうした様子から、映像関係や電子書籍、インターネット出版関連などの新しい出版環境が作られていることを思い知らされる。

このような一大イベントで自社の1冊を売り込むためには、意匠を凝らし、少しでも目立たせたいのは当然であろう。しかし、自然科学書フロアの各国出版社は、表紙の色づかいに統一感を持たせているのが印象的で、他フロアとは真逆（まぎゃく）に向かうかのようだ。そして、その静かな色づかいから、M&A、リストラなどを経て残った各国出版社の編集者、マーケティング担当者



自然科学書協会の展示棚

の、良質な書籍を作ろうというエネルギーが感じとれた。当社のジャンルに関しては、間違いなく、「本のレベル」が上がってきたと確信でき、著作権交渉にも熱が入った。

（緑書房 森田 猛）

専門委員会の活動抱負

● 総務委員会

総務委員会は従前の働きに加え、次の4点についてその実現に向け尽力します。

① 委員会活動の強化

これまで空席だった委員のポストに恒星社厚生閣の片岡社長にご就任いただきました。この人事が活動強化のポイントになるものと考えております。

② ホームページ上での情報公開

公益法人の見直しが進む中、公益性を主張するためにも必要な情報を一般の閲覧に供する必要があります。どの情報をどのように開示するかについては理事会での判断を仰ぎつつ、速やかに実現したいと考えます。

③ 規定などの見直し

委員会規定、慶弔に関する内規などについて過去の運用実績を考慮しながら、実情に合った見直し案を提示したいと考えます。

④ 創立60周年記念特別委員会会計

60周年事業が遅滞なく実現できるように会計面からサポートしたいと考えます。（委員長 飯塚 尚彦）

● 著作・著作権委員会

前回のご報告以降、文化審議会著作権分科会法制問題小委員会で審議されてきた「権利制限の見直し」に関して、会員各社のご協力をお願いしてきましたが、一般からの意見募集にご尽力をいただいたことと感謝申し上げます。現在、その取りまとめが進められている状況ですが、当協会に特に関連する、特許・薬事に関する「権利

制限の見直し」を注意深く見守っております。原則的に当協会の意見はそのほとんどについて反対の立場を取っていることは、ご理解いただけたと思います。この主張は書籍協会とも同じスタンスで進めています。

また日本複写権センターの改革を求めて、出著協を適して使用料規定の見直しを提案していますが、考え方の違う4団体の主張の食い違いには大きなものがあり、困難をきわめています。しかし、全ての出版物を管理できるという大前提が今回の改革の目的であるという認識で、時間がかかっても我々の希望する形にもっていくべきであろうと、当協会では考えています。すなわち指値での委託と、それに基づいた使用料でなくてはなりません。内容については、細かく記述はできませんが、配布ずみのいろいろな文書でご理解願えることと思います。

今後とも会員各社の皆様のご理解と、ご協力をお願いいたします。(委員長 及川 清)

● 国際委員会

「国際委員会フランクフルトブックフェアで開催！」というところで目が覚めた。遺憾ながら、本年の国際委員会は休眠です。会員の皆様、国際的な要望があればたたき起こしてください。来年は英文会員名簿の改訂を行います。(委員長 松嶋 徹)

● 販売・出展委員会

今期も東京国際ブックフェア(TIBF)2006一會期：2006年7月6日(木)～9日(日)を主要な行事として活動していきたいと思っております。2005年のTIBFでの当協会の販売実績は、4月から7月に会期が変更されたこと等により、大幅なダウンとなりました。売り上げ回復のために、今後は出品品目の選定や集客方法などにお工夫の余地があり得るものと考えています。しかし、昨年からはじめた分野別の展示方法のディスプレイは見やすく探しやすいと大方の好評を博しており、この辺りは同様のレイアウトを踏襲したいと思っております。会員各社のなお一層の積極的な出展参加とご協力をお願いします。

今年の北京国際図書展示会(BIBF)2005は、昨年の関連図書目録のみによる参加から一步踏み込んだ形で自然科学書協会の共同ブースをもつ出展参加となりました。実績としては20社の賛同を得ることができ、123点の実物展示となりました。また昨年と同様に協会の関連目録を会場で配布し、好評を得ております。「継続は力なり」でいきたいと思っております。

一方、フランクフルトブックフェアは、出版文化国際交流会からの要請による方式に大きな変更はなかろうと予想しております。(委員長 平田 直)

● 情報システム委員会

永年、当委員会をリードされてきた森北前委員長の後任として、このたび委員長の役務を拝命いたしました。

副委員長を2年務めただけの弱輩者ですが、筑紫常務理事をはじめ、森北・山口両副委員長と、また幸い委員の方々も大きな異動はありませんので、皆様の協力を賜りながら、精一杯役務を全うしたいと思います。

さて、本委員会では、ホームページ関連・ネットワーク関連など情報インフラの整備を中心としてコンピュータ周りの業務を担当しております。本委員会のメンバー構成も総務・営業・編集と多岐に渡っております。

今期の計画は、ホームページの整備と運営、新出版ネットワークの普及と研究、電子出版へのアプローチ、などです。

ホームページの整備では、協会会報の掲載(広報委員会)、自然科学書データベースの整備(各目録刊行会)、東京国際ブックフェア出展社ならびに書籍の検索(販売・出展委員会)、会員社名簿や収支報告書(総務委員会)、著作・出版物の権利について(著作・出版権委員会)など、他委員会の方々とも連携を取りながら、内容の充実と更新のスピードアップをより一層図りたいと思っております。各委員会の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

また、各学会や業界関連会社ならびに団体のホームページとの相互リンクも積極的に実施していきたいと思っております。

新出版ネットワークにつきましては、現在加入されている会員社から現状を報告していただき、問題点やメリットを研究しながら、当協会会員各社にお知らせし、普及に努めたいと思っております。

電子出版につきましては、雑誌、辞書、ハンドブックの電子化や、教科書などにCD-ROMとの複合、Webとの連携など、今後ますます普及するであろうと思われます。

これらにつきましては小委員会を設け、委員の方々のバックグラウンドを生かしてもらいながら活発に意見や情報の交換をしていただきたいと思います。

ともすれば、勉強会的要素が強い委員会になるかと思いますが、委員の方々の親睦を深めながら情報や意見の交換の場になるような委員会を開催していきたいと思っております。(委員長 曾根 良介)

● 広報委員会

副委員長を2年やっただけでいきなり委員長になり、正直たいへん戸惑っています。しかし、多くの委員の方が引き続いてやってくださり、強力な新メンバーを迎えることができましたので、心強く感じています。

当協会の会報がどのような役割を果たせばいいのかはなかなかむずかしい問題ですが、年4回発行して、協会の重要な活動を会員社の皆様に的確にしてタイムリーにお伝えすることが、何といても基本的な任務でしょう。再販制や消費税をめぐる動き、著作権や国際ブックフェア関連の情報などは最優先してお伝えするつもりです。

さて、その上で何をするのか。それが問題です。とりあえず、「会員各社に役立つ情報を提供する」そして「社会に向かって協会の存在をアピールする」会報をめ

ざしたいと思います。その具体策は、委員会のできるかぎり広く会員各社の意見を伺いながら決めていくつもりです。新委員会は多彩な論客が揃っていますので、いくつかの新しい試みを実現できるのではないかと考えています。(委員長 宮部 信明)

第55/第56期役員

(* : 新任)

- <理事長> 志村 幸雄(工業調査会)
 <専務理事> 本郷 允彦(南江堂)
 <常務理事> 南條 光章(共立出版*)
 筑紫 恒男(建帛社)
 牛来 辰巳(コロナ社)
 山本 格(培風館)
 <理事> 朝倉 邦造(朝倉書店)
 金原 優(医学書院)
 宮部 信明(岩波書店)
 佐藤 政次(オーム社)
 曾根 良介(化学同人)
 長 祥隆(技報堂出版)
 飯塚 尚彦(産業図書)
 後藤 武(彰国社*)
 藤実 彰一(診断と治療社)
 山口 雅巳(東京大学出版会*)
 平田 直(中山書店)
 松嶋 徹(丸善)
 森北 肇(森北出版)
 及川 清(養賢堂)
 <監事> 岡田 吉弘(海文堂出版)
 森田 猛(緑書房*)
 大谷 健美(文化産業信用組合)
 <相談役> 中川 廣一(光生館)
 吉野 達治(裳華房)

第55/第56期専門委員会委員

● 総務委員会

- <担当常務理事> 山本 格(培風館)
 <委員長> 飯塚 尚彦(産業図書)
 <副委員長> 長 祥隆(技報堂出版)
 山口 雅巳(東京大学出版会)
 <委員> 片岡 一成(恒星社厚生閣)

● 著作・出版権委員会

- <担当常務理事> 筑紫 恒男(建帛社)
 <委員長> 及川 清(養賢堂)
 <副委員長> 佐藤 政次(オーム社)
 岡田 吉弘(海文堂出版)
 <委員> 小畑 明夫(朝倉書店)・金原 優(医学書院)・山崎清徳(医学書院)・石村昭子(医歯薬出版)・鈴木泰彦(井上書院)・吾妻直記(オーム社)・山口啓子(学窓社)・小山 透(共立出版)・太田 博(杏林書院)・柴田勝祐(金芳堂)・福田璋夫(建帛社)・大

会員社HPから協会HPへのリンクを!

当協会のホームページ(HP)はアクセス件数が非常に少ないことが明らかになりました。これを改善するために、情報システム委員会では魅力的な内容作りや頻繁な更新などを検討していますが、会員各社のHPから協会のHP(<http://www.nspa.or.jp/>)へリンクを張っていただくことが、今すぐ実行できる有効策です。ぜひ会員社の皆様のご協力をお願いいたします。なお、協会HPから会員社へのリンクはすでにすべて張られています。(広報委員会)

島雅志(工業調査会)・山口重和(講談社サイエンティフィック)・牛来真也(コロナ社)・御園生晴彦(サイエンス社)・武長義雄(実教出版)・小野達也(裳華房)・渡辺嘉之(総合医学社)・井上輝信(東京大学出版会)・横井 信(南江堂)・天野慶悟(日刊工業新聞社)・大橋一弘(博友社)・原文好(博友社)・福田久子(北隆館)・羽貝雅之(緑書房)・森北博巳(森北出版)・三浦信幸(養賢堂)

● 国際委員会

- <担当常務理事> 南條 光章(共立出版)
 <委員長> 松嶋 徹(丸善)
 <副委員長> 金原 優(医学書院)
 <委員> 徳丸友美(オーム社)・横田穂波(共立出版)・山口雅巳(東京大学出版会)・大石 卓(農山漁村文化協会)・正路 修(メディカル・サイエンス・インターナショナル)

● 販売・出展委員会

- <担当常務理事> 牛来 辰巳(コロナ社)
 <委員長> 平田 直(中山書店)
 <副委員長> 藤実 彰一(診断と治療社)
 松嶋 徹(丸善)
 <委員> 白原 秀雄(朝倉書店)・福島章夫(医歯薬出版)・高田光明(オーム社)・田中克尚(化学同人)・中尾邦彦(金原出版)・原園洋一郎(協同医書出版社)・藤本公一(共立出版)・長 範彦(技報堂出版)・姫野尚之(建帛社)・高城 献(工業調査会)・西村泰敏(コロナ社)・佐藤忠雄(サイエンス社)・米川慎一(産業図書)・梅原比斗志(シーエムシー出版)・角田 徹(実教出版)・宮内耕次(裳華房)・小島祐二(彰国社)・古賀裕吉朗(誠文堂新光社)・加藤友昭(第一出版)・井上泰暢(電気書院)・諸星安紀(東海大学出版会)・西澤政幸(中山書店)・清水 豊(南江堂)・福田徹哉(農山漁村文化協会)・石田 聡(文永堂出版)・安田惇(丸善)・西村直己(養賢堂)

● 情報システム委員会

- <担当常務理事> 筑紫 恒男(建帛社)
 <委員長> 曾根 良介(化学同人)

<副委員長> 山口 雅巳(東京大学出版会)
森北 肇(森北出版)

<委員> 後藤 力(朝倉書店)・福田 淳
(医歯薬出版)・渡辺孝一(井上書院)・山田貴史(化学
同人)・潤賀浩明(共立出版)・本間久雄(建帛社)・石
井隆志(工業調査会)・木下敏孝(サイエンス社)・秀島
功(三共出版)・大庭良弘(実教出版)・江波戸重雄(裳
華房)・小林孝雄(昭晃堂)・青木 滋(中外医学社)・
中村光志(電気書院)・宇野文博(同文書院)・知織光
弘(日本工業出版)・留塚俊明(農山漁村文化協会)・斉
藤 淳(培風館)・小林功次郎(森北出版)

● 広報委員会

<担当常務理事> 南條 光章(共立出版)

<委員長> 宮部 信明(岩波書店)

<副委員長> 後藤 武(彰国社)
森田 猛(録書房)

<委員> 井上昭彦(朝倉書店)・安原 仁(家
の光協会)・池田富士太(科学新聞社)・長 滋彦(技報堂
出版)・新谷滋記(工業調査会)・小浴正博(恒星社厚生閣)・
三宅恒太郎(彰国社)・田中久米四郎(電気書院)・柳澤
則雄(永井書店)・柏原徹二(南江堂)

● 税制・再販流通特別委員会

<委員長> 志村理事長

<副委員長> 本郷専務理事

<委員> 南條常務理事 筑紫常務理事
牛来常務理事 山本常務理事
朝倉理事 金原理事
平田理事

● 著作・出版権特別委員会

<委員長> 志村理事長

<副委員長> 本郷専務理事

<委員> 南條常務理事 筑紫常務理事
牛来常務理事 山本常務理事
朝倉理事 金原理事
佐藤理事 及川理事
岡田監事

● 出版者著作権協議会

佐藤理事 及川理事 岡田監事

● 創立60周年記念特別委員会

<理事長> 志村 幸雄(工業調査会)

<専務理事> 本郷 允彦(南江堂)

<常務理事> 南條 光章(共立出版)
筑紫 恒男(建帛社)
牛来 辰巳(コロナ社)
山本 格(培風館)

<理事> 朝倉 邦造(朝倉書店)

金原 俊(医学書院)
宮部 信明(岩波書店)
佐藤 政次(オーム社)
曾根 良介(化学同人)
長 祥隆(技報堂出版)
飯塚 尚彦(産業図書)
平田 直(中山書店)
松嶋 徹(丸善)
及川 清(養賢堂)

年末会員集会開催のお知らせ

当協会恒例の年末会員集会在12月6日(火)18時より、
東京會館(千代田区)11階ゴールドルームで開催されます。
取次・関連業界の方々が多出席されますので、相互交
流を深める夕べとして、会員代表者、各専門委員会委員
の皆様のご参加をお願いします(会費は、1社1万5,000円)。

【事務局より】

- ◆ 年末会員集会
日時：2005年12月6日(火) 18時より
場所：東京會館
- ◆ 新年会員集会
日時：2006年1月19日(木) 12時より
場所：日本出版クラブ会館
- ◆ 恒星社厚生閣より、当協会代表者の変更届があった。
旧代表者 小浴 正博
新代表者 片岡 一成(代表取締役社長)

編集後記

新しい広報委員会になって最初の会報をお届けします。
再任された理事長・専務理事および各専門委員会の抱負の
他に、今年の北京とフランクフルトでのブックフェアの報告・
見聞記を平田直、森田猛さんにお願ひしました。

私の社からは今年のフランクフルトブックフェアに4人を
派遣しました。ところが今回のミッションは4人全員が女性
でした。これは私の社でも初めてのことで、たいへん張
り切ってミッションをこなしてくれました。どの社でも女性
の活躍がますます目立つようになってきていると思いますが、男
性もこれに負けぬように頑張ってください。

近年、韓流ドラマが大変人気を集めています。世のおばさ
んたちはなぜそんなものにハマっているのかと不思議に思っ
て『冬のソナタ』や『初恋』を見ていたのですが、いずれも
意外にとってもおもしろくて、自分自身がハマってしまっ
た。(N. M.)

第55期/第56期広報委員

<担当常務理事> 南條 光章(共立出版)

<委員長> 宮部 信明(岩波書店)

<副委員長> 後藤 武(彰国社)
森田 猛(録書房)

<委員> 井上昭彦(朝倉書店)・池田富士太
(科学新聞社)・長 滋彦(技報堂出版)・柏原徹二(南
江堂)・小浴正博(恒星社厚生閣)・新谷滋記(工業調査
会)・田中久米四郎(電気書院)・三宅恒太郎(彰国社)・
安原仁(家の光協会)・柳澤則雄(永井書店)